

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104100
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミール
事業所名	グループホーム ファミール立花
所在地	愛媛県松山市立花1丁目1番23号
自己評価作成日	平成24年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 6 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他の事業所に比べてアピールできる程かどうか分かりませんが、ファミール立花は両ユニット共に料理が上手な職員の割合が多いのか、職員がローテーションで料理を作っているのですが、利用者の食事に対する評価が高いと思います。ある利用者の家族が「母は外食等でおいしい物を食べていた人だから、料理に対しては結構うるさいし、おいしくなかったらおいしくないとはっきり言う人なんですよ。その母がこの食事はおいしいといっているのだから、お世辞でなくおいしいんだと思いますよ」と面会時に話してくれてます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設から8年を経過し、地域との交流を深め、利用者の日々の暮らしを支えている。利用者が安心して暮らせるよう季節感や生活感を採り入れ、居心地のよい環境づくりに努めている。管理者や職員は理念をもとに利用者中心のケアを実践している。利用者は穏やかな表情で、一人ひとり自分のペースで過ごしている。医療面においても24時間連携体制が確保され、協力医療機関の医師の往診もあり、利用者や家族が安心を得ることができている。食事は利用者の楽しみの1つで、個々の状態に合わせて調理方法を工夫しており完食する利用者が多い。利用者の希望を聞いて、ユニット毎に外出の計画を立て支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ファミール立花
(ユニット名)	A
記入者(管理者)	
氏名	池邊 敦史
評価完了日	平成 24年 6月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時に考えた 1. 安心して生活できる環境の提供 2. 個人の尊重と自立支援 3. 地域交流の支援という理念があり、外部評価のときに理念を再考してもいいのでは？との指摘を受けたことがあるが、今のところは開設時からの理念で愛着もあり、このままでも問題ないのではという気持ちもある。この理念を日誌やロビーに明記して普段から意識しやすいようにしていて、カンファレンスやケアプラン作成時の基本にしている。</p> <p>(外部評価) 理念は開設時からのもので、地域の中で利用者の暮らしを支えるため、日頃から利用者一人ひとりについて職員間で話し合いを行い、共有して日々のケアに活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所への外出は去年より増えていて、近所の人と挨拶を交わしたり話をしたりすることも増えている。事業所自体が地域の一員として日常的に交流ができているというほどではないが、近くの事業所さんの地域交流イベントに参加や公民館の夏祭り、地区の防災訓練へ参加したり交流を増やすよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 天気のよい日には近くの寺や神社を散歩したり、保育園の子供の姿を見て楽しんでいる。自治会に入り、地域や公民館の行事に参加している。傾聴ボランティアなどの訪問や中学生の体験学習や高校の実習等も受け入れ、地域との交流がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人を含めて、ホームに相談に来る人が時々あり相談に乗っているが、事業所側から積極的に講習会を開くようなことはしていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 今年度から他事業所にも運営推進会議に出席してもらい意見交流を図っている。その意見を参考に自分たちのグループホームを客観的にみる機会になっていて一定のサービスレベル維持になっている。今後もこれをサービス向上に活かしたいと考えている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、市や地域包括支援センターの職員、近くの同法人の事業所の職員等の参加を得て行われている。内容は近況報告や意見交換が行われ、地域の情報も得ている。8月の「花火のゆうべ」や12月の「クリスマス会」等交流会時に開催し、多くの参加を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡や相談を行っている。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加し、意見を出してもらい情報交換している。地域包括支援センターの職員とは日頃より交流がありよく相談している。認知症絵本の読み聞かせの勉強会や他の研修会等にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的に身体拘束をしないケアをとということでカンファレンス等で話し合いもしており取り組んでいるが、安全上やむを得ない場合は、家族の承諾を得て必要に応じて対応している。	
			(外部評価) 管理者や職員は、身体拘束について毎月カンファレンスで話し合い外部研修にも参加し、正しい理解をしてケアに取り組んでいる。病気等でやむを得ない場合には、家族の了解を得て対応している。	マニュアルを整備して、職員間で身体拘束についてよく話し合ったり、新人職員の教育に活用するなど、よりよい研修が行なわれることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンスの時に、毎回言葉遣いについて注意や話し合いをしたりして虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) Bユニットに成年後見制度を利用している入居者が1人いるが、Aユニットにはこの制度を利用している方はいない。今後必要と思われる状況になれば、関係者と話し合いこれらの制度や支援事業の活用を考えていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示がしやすいような職員との関係作りを意識しているのと、家族が面会にきた時にも同様に気が付いたことを言いやすいような雰囲気作りをし、その中で出た意見などで、出来ることは運営に反映するように努力している。	
			(外部評価) 日頃の生活の中で利用者に希望を聞いたり、家族の訪問時にも要望を聞いている。運営推進会議や事業所の行事、家族への状況報告や県外家族への電話連絡など、機会あるごとに意見を聞くよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任（副主任）、管理者、運営者が集まり会議を開くようにし、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、反映できるようにしている。また普段の何気ない会話の中にも問題意識を持つようにしている。 (外部評価) 日頃から管理者と職員はよい関係が保たれており、話しやすい環境が確保されている。会議等でも職員から意見を聞くよう努めている。希望に応じて、外部研修は事業所負担で参加できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 経営状況によっては難しいこともあるが、可能な範囲で職場環境や条件整備に努め、やりがいのある職場を目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社の運営上必要と認めたものは外部の研修についても勤務時間外で研修を受けてもらい、研修費用も会社が全額負担するようにしている。その他の研修についても、状況に応じ研修費用を（一部～全部）負担したり、勤務外で研修を受けられる機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互訪問は行っていないが、勉強会や交流は包括支援センターの連絡会や地域密着型サービス協会の研修等で機会があり、時間が許せば参加するようにしている。他事業所の運営推進会議や消防訓練への参加を行い交流の機会を確保している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前にも、本人や関係者からこれまでの経緯や現状を聞いたり、利用についての不安等があれば聞くようにし、利用後も随時本人等の話に耳を傾け、安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) そういうように意識を持ち接するようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういうように意識を持ち接するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や、以前交流があった人たちにも働きかけ、馴染みの人や場所との関係が少しでも維持できるように働きかけている。	
			(外部評価) 友人や知人などの面会が楽しい時間となるように心がけている。これまでの馴染みの人や場所など大切な関係が途切れないよう、利用者の希望に応じて家族と相談しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 支え合うようなところまでいかななくても、相性は考えて対応している。中には他者と上手く関係を作れない利用者もいるが、誰かが孤立してしまうようにならないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同様に心がけていて、以前入居していた利用者の家族が時々ホームに立ち寄ってくれることもある。また、入院が長期になり退所になった利用者の家族が県外で生活しているので、入院中の状況を定期的伝えたり、手続き等を家族に代わり行ったりしたことがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、家族の面会時に利用者や家族の思いや希望が出ることも多く、そういった思いや希望に対しどうすればその一部でも実現できないかと、まずは受け入れるようにし、始めからそれは無理というような考え方はしないようにしている。	
			(外部評価) 利用者の普段の生活の中で希望を聞いたり、家族の訪問時に意向を聞いたりしている。職員は日頃の利用者の様子から思いを把握し、記録に残し会議等で話し合っている。職員間で情報共有し、利用者個別のケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人や家族、関係者からの情報に加え、入居後も本人や家族等の会話から情報を得るようにしていて、追加で得られた情報を記入するノートを作りこれまでの暮らしその人らしい生活のあり方について共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のカンファレンス時に普段の様子や面会時の家族等からの情報を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望や要望、担当職員の意見も採り入れて介護計画を作成している。介護計画の実施は個々のチェックリストで把握し、1か月毎に評価を行い、次の実践につなげている。実施記録は1か月ごとに記録がまとめられるなど、分かりやすく工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟に対応するように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ホーム入居前にこの地域で生活していた人の割合も増え職員付き添いで近所の美容室やスーパーを利用する機会が以前より増えてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医を含め、必要に応じ家族や本人の希望を 聞き必要な医療機関の受診等の支援を行っている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者は協力医療機関がかかりつけ医と なっており、週に1～2回往診がある。専門の医療機 関で受診する場合は職員が付き添う事が多いが、家族 が一緒に行くこともある。24時間の医療連携が確保 され、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 同様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同様にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時の説明でも看取りについての話をしているが、 必要と考えられる場合には、その都度家族や関係者と 話し合いをしている	
			(外部評価) 利用者の状況に応じて、かかりつけ医や家族、職員で 十分話し合いを行い、希望があれば看取りを行う方針 としている。看取りの経験もあり、職員も方針をよく 理解している。	利用者や家族にとって終末期は不安も多く、職員は継 続して研修を行い、さらなるケアの向上に期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についての簡単な対応マニュアルを作っていて見やすい所に貼っていたり、年2回の消防避難訓練で消防署職員に救命講習を受けるようにしている。また救命方法のビデオを置いてあり職員が借りて帰れるようにもしているが、実際にそういう場面に職員が遭遇した場合は、大半の職員が経験を積んでいないので不安はあるが直ぐに職員と連絡をとれるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 最近では夜間に火災が発生した設定で、火災避難訓練をしている。地域との協力体制については、取り決めをしているわけではないが、近所に住んでいる職員が2名いるのと、入居者の知人の家族が近所に住んでいたり、運営推進委員の町内会長と民生委員の方々も家が近いので、ある程度協力は得られるように思っている。 (外部評価) 定期的に消防署の協力を得て、夜間を想定した避難訓練も行っている。地域の自主防災の訓練に参加し、交流を深めている。	事業所としてできることを地域の方と話し合うなど、お互いに助け合えるような協力体制を築いていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 慣れてくると言葉遣いが友達言葉になってくるので、ほぼ毎回カンファレンスの時などに注意するようにしている。十分ではないが、同様に対応するように努めている。 (外部評価) 利用者によっては同性介助を行うなど配慮している。利用者の人格を尊重し、言葉遣いにも配慮しながら声かけをしており、会議等でもプライバシーを大切にすよう話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上できない事もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら、できる範囲で個人のペースや希望に添うように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同様にしている。特に遠足や行事の時に。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けに参加できる利用者や参加できる内容は限られてしまうが、働きかけは行っている。利用者さんと一緒に調理をし、得意料理を作って頂く機会も以前と比べ増えつつある。	
			(外部評価) ユニット毎に利用者の希望等を聞いて献立を立てて、刻み食やとろみをつける等工夫している。職員が隣に座り、利用者は会話を楽しみながら食事している。食事の準備や下ごしらえ、調理、後片付け等できることは職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の栄養状態や、体重を考えて必要な人には食事量の制限や栄養補助食品の利用などを行い。摂取量についても、必要に応じ個別により細かいチェックをするようにして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が拒否する場合もあるが、利用者全員に口腔ケアを働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) まだ工夫できることはあると思うが、同様の対応をしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、オムツを使用している方など一人ひとりの状態に応じて、自立に向けた支援をしている。夜間は2時間毎に訪室しトイレ誘導するなどの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。また、排便チェック表をつけていて、必要に応じ便秘薬も使用し便秘が長期化しないように気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上時間帯については本人の希望どうりにはできていないが、時間内であれば、曜日や同性介助など希望を聞いて行っている。	
			(外部評価) 入浴は毎日午後に入れるようになっており、利用者の希望に沿った支援をしている。入浴が苦手な利用者には、その日の気分や体調等に合わせて声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量等は薬局から出される説明文を個人のカルテに入れていて、必要に応じ確認できるようにしている。また、症状の変化にも気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の過ごし方は、みんなと一緒に体操やちょっとしたゲームをすることもあるが、それぞれがぬり絵をしたり、パズルをしたりという具合で過ごしていることが多く、時々職員と一緒にしながら支援している。又、機会があればTV体操に参加してもらい気分転換をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ちょっとした近所への外出は去年よりも増えているが、その時になって急に言われるとできない事も多く、日を変えてもらうこともある。普段いけないような場所への外出は、まずは家族に協力をお願いし行うようにしている。	
			(外部評価) 天気のよい日には近所を散歩し、利用者の希望に応じて買い物などに職員と出かけている。家族に参加を呼びかけて、ユニット毎に花見や遠足に行く等、外出する機会を多く計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所有している利用者は少ないが、希望がある場合は家族と相談の上、小額を本人に管理してもらっている。また外出時出来るだけ本人がお金を支払うように心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂（リビング）がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。	
			(外部評価) 居間は広く季節感を採り入れた雰囲気づくりがなされ、利用者が落ち着いて過ごすことができる。共用空間は快適な室温が保たれ、利用者はゆったりと自分のペースで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に置けるものであれば、馴染みの物を持ち込んでかまわないようにしているので、自宅にあった仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。	
			(外部評価) 居室はベッドや家具が備え付けられている。利用者それぞれ自分の使い慣れたものを持ち込んで、壁に飾る等好みの配置をし、家で過ごしていたような居心地のよい雰囲気づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの広さや廊下の幅は車イスも利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差も少なくし、トイレ・浴室・廊下に手すりを取り付けている。また、居室入り口等に名札を付けたり、カレンダーや時計を目に付きやすいところに設置し、確認しやすいようにしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104100
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミール
事業所名	グループホーム ファミール立花
所在地	愛媛県松山市立花1丁目1番23号
自己評価作成日	平成24年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 6 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他の事業所に比べてアピールできる程かどうか分かりませんが、ファミール立花は両ユニット共に料理が上手な職員の割合が多いのか、職員がローテーションで料理を作っているのですが、利用者の食事に対する評価が高いと思います。ある利用者の家族が「母は外食等でおいしい物を食べていた人だから、料理に対しては結構うるさいし、おいしくなかったらおいしくないとはっきり言う人なんですよ。その母がこの食事はおいしいといっているのだから、お世辞でなくおいしいんだと思いますよ」と面会時に話してくれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設から8年を経過し、地域との交流を深め、利用者の日々の暮らしを支えている。利用者が安心して暮らせるよう季節感や生活感を採り入れ、居心地のよい環境づくりに努めている。管理者や職員は理念をもとに利用者中心のケアを実践している。利用者は穏やかな表情で、一人ひとり自分のペースで過ごしている。医療面においても24時間連携体制が確保され、協力医療機関の医師の往診もあり、利用者や家族が安心を得ることができている。食事は利用者の楽しみの1つで、個々の状態に合わせて調理方法を工夫しており完食する利用者が多い。利用者の希望を聞いて、ユニット毎に外出の計画を立て支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名) B

記入者(管理者)

氏名 池邊 敦史

評価完了日 平成 24年 6月 3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時に考えた 1. 安心して生活できる環境の提供 2. 個人の尊重と自立支援 3. 地域交流の支援という理念があり、外部評価のときに理念を再考してもいいのでは？との指摘を受けたことがあるが、今のところは開設時からの理念で愛着もあり、このままでも問題ないのではという気持ちもある。この理念を日誌やロビーに明記して普段から意識しやすいようにしていて、カンファレンスやケアプラン作成時の基本にしている。</p> <p>(外部評価) 理念は開設時からのもので、地域の中で利用者の暮らしを支えるため、日頃から利用者一人ひとりについて職員間で話し合いを行い、共有して日々のケアに活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所への外出は去年より増えていて、近所の人と挨拶を交わしたり話をしたりすることも増えている。事業所自体が地域の一員として日常的に交流ができているというほどではないが、近くの事業所さんの地域交流イベントに参加や公民館の夏祭り、地区の防災訓練へ参加したり交流を増やすよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 天気のよい日には近くの寺や神社を散歩したり、保育園の子供の姿を見て楽しんでいる。自治会に入り、地域や公民館の行事に参加している。傾聴ボランティアなどの訪問や中学生の体験学習や高校の実習等も受け入れ、地域との交流がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人を含めて、ホームに相談に来る人が時々あり相談に乗っているが、事業所側から積極的に講習会を開くようなことはしていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 今年度から他事業所にも運営推進会議に出席してもらい意見交流を図っている。その意見を参考に自分たちのグループホームを客観的にみる機会になっていて一定のサービスレベル維持になっている。今後もこれをサービス向上に活かしたいと考えている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、市や地域包括支援センターの職員、近くの同法人の事業所の職員等の参加を得て行われている。内容は近況報告や意見交換が行われ、地域の情報も得ている。8月の「花火のゆうべ」や12月の「クリスマス会」等交流会時に開催し、多くの参加を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡や相談を行っている。	
			(外部評価) 市や地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加し、意見を出してもらい情報交換している。地域包括支援センターの職員とは日頃より交流がありよく相談している。認知症絵本の読み聞かせの勉強会や他の研修会等にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的に身体拘束をしないケアをとということでカンファレンス等で話し合いもしており取り組んでいるが、安全上やむを得ない場合は、家族の承諾を得て必要に応じて対応している。	
			(外部評価) 管理者や職員は、身体拘束について毎月カンファレンスで話し合い外部研修にも参加し、正しい理解をしてケアに取り組んでいる。病気等でやむを得ない場合には、家族の了解を得て対応している。	マニュアルを整備して、職員間で身体拘束についてよく話し合ったり、新人職員の教育に活用するなど、よりよい研修が行なわれることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンスの時に、毎回言葉遣いについて注意や話し合いをしたりして虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) Bユニットに成年後見制度を利用している入居者が1人いるが、Aユニットにはこの制度を利用している方はいない。今後必要と思われる状況になれば、関係者と話し合いこれらの制度や支援事業の活用を考えていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示がしやすいような職員との関係作りを意識しているのと、家族が面会にきた時にも同様に気が付いたことを言いやすいような雰囲気作りをし、その中で出た意見などで、出来ることは運営に反映するように努力している。	
			(外部評価) 日頃の生活の中で利用者に希望を聞いたり、家族の訪問時にも要望を聞いている。運営推進会議や事業所の行事、家族への状況報告や県外家族への電話連絡など、機会あるごとに意見を聞くよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任（副主任）、管理者、運営者が集まり会議を開くようにし、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、反映できるようにしている。また普段の何気ない会話の中にも問題意識を持つようにしている。	
			(外部評価) 日頃から管理者と職員はよい関係が保たれており、話しやすい環境が確保されている。会議等でも職員から意見を聞くよう努めている。希望に応じて、外部研修は事業所負担で参加できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 経営状況によっては難しいこともあるが、可能な範囲で職場環境や条件整備に努め、やりがいのある職場を目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社の運営上必要と認めたものは外部の研修についても勤務時間外で研修を受けてもらい、研修費用も会社が全額負担するようにしている。その他の研修についても、状況に応じ研修費用を（一部～全部）負担したり、勤務外で研修を受けられる機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互訪問は行っていないが、勉強会や交流は包括支援センターの連絡会や地域密着型サービス協会の研修等で機会があり、時間が許せば参加するようにしている。他事業所の運営推進会議や消防訓練への参加を行い交流の機会を確保している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前にも、本人や関係者からこれまでの経緯や現状を聞いたり、利用についての不安等があれば聞くようにし、利用後も随時本人等の話に耳を傾け、安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) そういうように意識を持ち接するようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういうように意識を持ち接するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や、以前交流があった人たちにも働きかけ、馴染みの人や場所との関係が少しでも維持できるように働きかけている。 (外部評価) 友人や知人などの面会が楽しい時間となるように心がけている。これまでの馴染みの人や場所など大切な関係が途切れないよう、利用者の希望に応じて家族と相談しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 支え合うようなところまでいかななくても、相性は考えて対応している。中には他者と上手く関係を作れない利用者もいるが、誰かが孤立してしまうようにならないように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同様に心がけていて、以前入居していた利用者の家族が時々ホームに立ち寄ってくれることもある。また、入院が長期になり退所になった利用者の家族が県外で生活しているので、入院中の状況を定期的伝えたり、手続き等を家族に代わり行ったりしたことがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、家族の面会時に利用者や家族の思いや希望が出ることも多く、そういった思いや希望に対しどうすればその一部でも実現できないかと、まずは受け入れるようにし、始めからそれは無理というような考え方はしないようにしている。	
			(外部評価) 利用者の普段の生活の中で希望を聞いたり、家族の訪問時に意向を聞いたりしている。職員は日頃の利用者の様子から思いを把握し、記録に残し会議等で話し合っている。職員間で情報共有し、利用者個別のケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人や家族、関係者からの情報に加え、入居後も本人や家族等の会話から情報を得るようにしていて、追加で得られた情報を記入するノートを作りこれまでの暮らしその人らしい生活のあり方について共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のカンファレンス時に普段の様子や面会時の家族等からの情報を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望や要望、担当職員の意見も採り入れて介護計画を作成している。介護計画の実施は個々のチェックリストで把握し、1か月毎に評価を行い、次の実践につなげている。実施記録は1か月ごとに記録がまとめられるなど、分かりやすく工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟に対応するように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ホーム入居前にこの地域で生活していた人の割合も増え職員付き添いで近所の美容室やスーパーを利用する機会が以前より増えてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医を含め、必要に応じ家族や本人の希望を 聞き必要な医療機関の受診等の支援を行っている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者は協力医療機関がかかりつけ医と なっており、週に1～2回往診がある。専門の医療機 関で受診する場合は職員が付き添う事が多いが、家族 が一緒に行くこともある。24時間の医療連携が確保 され、安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 同様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同様にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時の説明でも看取りについての話をしているが、 必要と考えられる場合には、その都度家族や関係者と 話し合いをしている	
			(外部評価) 利用者の状況に応じて、かかりつけ医や家族、職員で 十分話し合いを行い、希望があれば看取りを行う方針 としている。看取りの経験もあり、職員も方針をよく 理解している。	利用者や家族にとって終末期は不安も多く、職員は継 続して研修を行い、さらなるケアの向上に期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についての簡単な対応マニュアルを作っていて見やすい所に貼っていたり、年2回の消防避難訓練で消防署職員に救命講習を受けるようにしている。また救命方法のビデオを置いてあり職員が借りて帰れるようにもしているが、実際にそういう場面に職員が遭遇した場合は、大半の職員が経験を積んでいないので不安はあるが直ぐに職員と連絡をとれるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 最近では夜間に火災が発生した設定で、火災避難訓練をしている。地域との協力体制については、取り決めをしているわけではないが、近所に住んでいる職員が2名いるのと、入居者の知人の家族が近所に住んでいたりと、運営推進委員の町内会長と民生委員の方々も家が近いので、ある程度協力は得られるように思っている。 (外部評価) 定期的に消防署の協力を得て、夜間を想定した避難訓練も行っている。地域の自主防災の訓練に参加し、交流を深めている。	事業所としてできることを地域の方と話し合うなど、お互いに助け合えるような協力体制を築いていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 慣れてくると言葉遣いが友達言葉になってくるので、ほぼ毎回カンファレンスの時などに注意するようにしている。十分ではないが、同様に対応するように努めている。 (外部評価) 利用者によっては同性介助を行うなど配慮している。利用者の人格を尊重し、言葉遣いにも配慮しながら声かけをしており、会議等でもプライバシーを大切にすよう話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上できない事もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら、できる範囲で個人のペースや希望に添うように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同様にしている。特に遠足や行事の時に。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けに参加できる利用者や参加できる内容は限られてしまうが、働きかけは行っている。利用者さんと一緒に調理をし、得意料理を作って頂く機会も以前と比べ増えつつある。	
			(外部評価) ユニット毎に利用者の希望等を聞いて献立を立てて、刻み食やとろみをつける等工夫している。職員が隣に座り、利用者は会話を楽しみながら食事している。食事の準備や下ごしらえ、調理、後片付け等できることは職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の栄養状態や、体重を考えて必要な人には食事量の制限や栄養補助食品の利用などを行い。摂取量についても、必要に応じ個別により細かいチェックをするようにして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が拒否する場合もあるが、利用者全員に口腔ケアを働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) まだ工夫できることはあると思うが、同様の対応をしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、オムツを使用している方など一人ひとりの状態に応じて、自立に向けた支援をしている。夜間は2時間毎に訪室しトイレ誘導するなどの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。また、排便チェック表をつけていて、必要に応じ便秘薬も使用し便秘が長期化しないように気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上時間帯については本人の希望どうりにはできていないが、時間内であれば、曜日や同性介助など希望を聞いて行っている。	
			(外部評価) 入浴は毎日午後に入れるようになっており、利用者の希望に沿った支援をしている。入浴が苦手な利用者には、その日の気分や体調等に合わせて声かけを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量等は薬局から出される説明文を個人のカルテに入れていて、必要に応じ確認できるようにしている。また、症状の変化にも気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の過ごし方は、みんなと一緒に体操やちょっとしたゲームをすることもあるが、それぞれがぬり絵をしたり、パズルをしたりという具合で過ごしていることが多く、時々職員と一緒にしながら支援している。又、機会があればTV体操に参加してもらい気分転換をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ちょっとした近所への外出は去年よりも増えているが、その時になって急に言われるとできない事も多く、日を変えてもらうこともある。普段いけないような場所への外出は、まずは家族に協力をお願いし行うようにしている。	
			(外部評価) 天気のよい日には近所を散歩し、利用者の希望に応じて買い物などに職員と出かけている。家族に参加を呼びかけて、ユニット毎に花見や遠足に行く等、外出する機会を多く計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所有している利用者は少ないが、希望がある場合は家族と相談の上、小額を本人に管理してもらっている。また外出時出来るだけ本人がお金を支払うように心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂（リビング）がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。	
			(外部評価) 居間は広く季節感を採り入れた雰囲気づくりがなされ、利用者が落ち着いて過ごすことができる。共用空間は快適な室温が保たれ、利用者はゆったりと自分のペースで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に置けるものであれば、馴染みの物を持ち込んでかまわないようにしているので、自宅にあった仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。	
			(外部評価) 居室はベッドや家具が備え付けられている。利用者それぞれ自分の使い慣れたものを持ち込んで、壁に飾る等好みの配置をし、家で過ごしていたような居心地のよい雰囲気づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの広さや廊下の幅は車イスも利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差も少なくし、トイレ・浴室・廊下に手すりを取り付けている。また、居室入り口等に名札を付けたり、カレンダーや時計を目に付きやすいところに設置し、確認しやすいようにしている。	